

エコタウンまつえ

全戸配布

秋号

No. 130

- 発行
2018. 10. 1
- 編集
エコタウンまつえ編集室
(松江市環境保全課)
- E-mail
k-hozen@city.matsue.lg.jp
- TEL
(0852) 55-5278
- FAX
(0852) 55-5497

直せば使えるおもちゃを修理 「松江おもちゃの病院」



捨てるのはもったいない。
懐かしい壊れたおもちゃを修理して孫に与えたい。

● 持ち込まれたおもちゃを修理

壊れたおもちゃを修理する病院が大人気。宣伝しなくても口コミで多くの修理依頼が来ています。

この病院は二十五年前、松江市福祉センターで開院され、現在ではメンバー二十数人で修理に当たっています。年間約六百件の修理をしています。九十九パーセントは直っているそうです。

持ち込まれる物は多種多様。祖父母が保管していたおもちゃを直して孫に与えたり、昔の自分の声が録音されたテープなどを直して、懐かしみながら聞き返したり、購入して二年くらいで壊れて捨てようと思ったおもちゃをもらい、修理し交換するなど。

鉄道玩具やラジオコントロール（ヘリコプターや自動車など）まで高度な技術を必要とするものも修理しますが、交流電源を使用するものや球が飛ぶ危険なもの、TVゲームなどは扱いません。

代表の野口



● 修理が完了したおもちゃ

三郎さんは技術屋ではなく、東京で大手電気メーカーの営業をしていたのですが、おもちゃが好きだということもあって、七年前からおもちゃの病院の活動に参加したそうです。元気なうちに松江のためにと、Iターンしました。

「捨てるのはもったいない。直せるものは直し、喜んで使用してもらいたい」と語りました。

おもちゃの病院は現在三方所で活動しています

- ・ 東津田児童館
毎月第一月曜日
午前十時～午後〇時
- ・ 子育て支援センター(あいあい)
毎月第二土曜日
午前十時～午後三時
- ・ 城西二コニコ交流館
毎月第四土曜日
午前十時～午後三時

(折田昌弘記者)

くにびき エコクラブ

地球温暖化防止
啓発活動
「エコチャレンジ」

六月十六日、「くにびきエコクラブ」による「松徳学院中学校エコチャレンジ」が開催されました。これは、家庭や地域における地球温暖化防止の啓発を目的とする活動で、環境創作劇と節電の体験学習との二部構成からなっています。この日は、一般市民、関係者、中学校、高等学校の生徒など、約百三十人が参加しました。

「くにびきエコクラブ」は、平成二十一年に発足し、家庭から企業、行政など、あらゆる分野へ地球温暖化防止活動の実践を提言してきました。中でも創作劇上演と講座を組み合わせたこの活動は、学校や公民館などで開催され、全国的にも類のない活動として関係機関より注目されています。

今回の上演劇「宍道湖の夜明け」は、しじみ漁師の家族が地球温暖化の影響によって漁ができなくなることを実感していく過程から、温暖化防止に立ち上がるストーリーになっています。生徒や市民にも身近な題材を取り入れ、関心を惹きつける創作劇でした。

二部の体験学習では、生徒が実際に



●「宍道湖の夜明け」を演じる「くにびきエコクラブ」の皆さん

に電球や電気製品の消費電力測定を行い、CO₂排出量の算出や電気料金の比較をしました。

松徳学院では、環境に関する授業を行っていることから、生徒のエコに対する関心も高く、中学三年生の小川美優さんは「電気をこまめに消すようにしています」と話し、川上日菜さんは「エアコンばかり使うのではなく、窓を開けるようにしています」と、日常生活で実践していることを話してくれました。

「くにびきエコクラブ」会長の北垣幸久氏は、「自分にできることからエコに挑戦してほしい。将来、どこにいても環境改善のリーダーとなつて活躍してほしい」と呼びかけ、講座は終了しました。

演劇鑑賞や体験などで、環境問題をより身近に感じることができ「エコチャレンジ」。今後さまざまな場所でも、皆さんに呼びかけを続けていくそうです。

(安達善子記者)

今と未来への意識を育てる活動

人々の訪れを待つ初夏の海で環境への意識の芽生え

六月十日に古浦海岸で行われた、大手企業が企画するボランティア活動に、定員百五十人を超えるたくさんの方が参加し、そこには、島根大学教育学部の学生の姿も見られました。

ブラジル出身の留学生であるエミ・ヒガシタニさんは「清掃活動に参加して、ごみをしっかりと分別して捨てることの大切さを学ぶことができました。ブラジルでは日本と違いあまりごみを分別しないから、ブラジルでもごみの分別を積極的に行っていくべきだと思います。私もごみの分別を心がけようと思うし、これからもこうした活動に参加していきたいです」と語ってくれました。活動に参加することで、環境に対する意識が変わったようです。

また、島根大学四年生の笹原啓史さんは「海にこんなにごみがあるととは思いませんでした。プラスチックのごみが多くて、そのような環境で育った魚が食卓に並ぶと考えたらゾッとしました。公共の場である海は、大切にすべきだと思います。自分が教師になつたら子どもたちに公共の場を大切に

することと、ごみのポイ捨ては自分たちの健康を害することにつながることを伝えたいと思います」と語ってくれました。

松江市の素晴らしい環境を未来につなぐためには、清掃活動をして環境を整えるだけでは十分ではありません。そのためには、ヒガシタニさんのように意識を変えていくことが大切であると思います。そして、笹原さんのように環境を大切にする意識を、次世代につなぐことが重要だと思います。皆さんも、環境に対する意識のバトンをつないでいきませんか。

(狩野元基記者)



●清掃活動で回収されたごみ
(松本教授と島根大学生)



市生活環境保全推進員の活動紹介「乃木地区」

多くの施設をきれいに利用してほしい



高木 勇さん

乃木地区は宍道湖南部に位置し、北部に松山、東に総合運動公園、西に松江西ランプと広大で、比較的新しく開発された地区です。

七千二百六世帯、一万六千八百一人（三十年四月現在）、四十七自治会からなり、学校・病院・公園・商業施設など、多くの施設が立ち並びます。

乃木地区の生活環境保全推進員の八人は、以前から公民館環境部や婦人部の方々と共に活動していました。が、地域の環境美化は、個人ベースの日々の地道な活動の積み重ねが大切であると捉え、現在は個々に定めた地域を担当し活動しています。ただし、今年には全員で地域全体をパトロールする計画があり、一丸となって環境美化にも努めています。

生活環境保全推進員の一人である

高木勇さんは、以前から環境に対し関心を持ち、まつえ市民大学環境カレッジの第一期生として勉強しました。さらに島根県地球温暖化防止活動推進員、宍道湖・中海湖沼環境モニター、森林インストラクターなど多くの団体に所属し、環境美化に対し活動してきました。

担当地域には学校や運動公園・商業施設・高速道路・忌部川などがあり、それらの周辺には不法投棄されやすい場所が多くあります。特に忌部川の橋の下や、フェンスの内側の見つけにくい場所に捨てるなど悪質な事例や、高速道路の斜面や側道には車から捨てられたとみられるペットボトルやレジ袋に入れられたごみがあり、拾うのに苦労しています。

高木さんは、朝、自分の健康のために散歩をしています。その際ごみ袋を片手にコースを変えながら歩き、ごみを拾うことが、日々の生活の一部になっているそうです。

「体の続く限りマイペースで、美化に努めたい」と高木さんは語りました。

（松尾和美記者）

資源の分別
努力を



●手選別コンベヤーで不適物を除去する作業員

「資源」とは、「金属、プラスチック製容器包装、紙製容器包装、古紙・古着、缶びん、ペットボトル」のことで、リサイクル可能な回収物です。

「ごみ」とは「もやせるごみ、粗大ごみ」で、焼却や埋め立てするものであると松江市では区別されています。今回は、「資源」が運び込まれる施設の一つ、川向リサイクルプラザを取材しました。

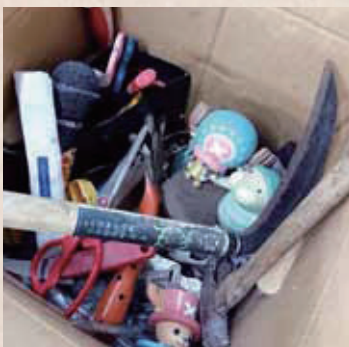
集められた「資源」はそれぞれのコンベヤーに流され、作業員の目視により「不適物」（種類が違う物やごみ）が除去されていきます。「プラスチック製容器包装」に混

じった「不適物」として多く見られたのは、ペットボトルでした。ペットボトルのキャップとラベルは「プラスチック製容器包装」で良いのですが、本体はリサイクルステーションへ持ち込まなければいけません。他にも、包丁やおもちゃが混じっていたり、在宅医療で使用された注射針を入れたペットボトルもあったそうです。

「紙製容器包装」の袋には、段ボールや雑誌が混入していました。その中でも多かったのはラップやトイレットペーパーの芯でした。芯は「古紙」で出さなくてはなりません。が、知らない方も多いのではないのでしょうか。他にも、「古紙」の段ボールの中に動物のふんが隠されていることもあるそうです。

川向リサイクルプラザの野津秀一さんは「もやせるごみ袋の値上げによって、もやせるごみとして捨てられている「資源」の分別が促され、ごみの減量につながると思います。その一方、無料で収集している「古紙・古着」にもやせるごみを混入されることが懸念されます」と語りました。

（松井萌記者）



●混入されていた刃物やおもちゃ

地球は長い旅路の途中です。四十
六億年という地球時間は人類には想
像を絶します。綺麗な星空を見上げ
るたびに、超大な時間を感じ、銀河
を駆ける流れ星を探します。

人生も良く旅に例えられます。良
いこともあれば、そうでないこと
が起こるのが人生です。そんな日常
の中に新たな発見や活力を見いだす
事ができるのが旅の楽しみの一つで
す。地球環境も大きな視点では変動

を繰り返す旅人のようです。

身近な環境の変化は四季の中で感
じる事ができます。この変化は元来
自然そのものであり、一年一年のリ
ズミカルな変化の繰り返しは豊かな
生態系や自然美を育みます。自然は
本当に素晴らしい芸術家です。問題
に対し、繰り返す四季という自然の变化
に対し、人類がその生産活動により、
負の影響を与えている可能性が指摘
されることです。



● 島根半島に露出する千五百万年前の地層について地球環境の
変化を説明する松本教授（鹿島町手結）

四十六億年という地球
の旅が、今後も末永く継続
するように、私たちの地球
環境に対する保全活動は
極めて重要です。国と国の
環境に対する取り決めは
勿論大切です。しかし、そ
のような国際的な動きと
同様に、いやそれ以上に私
たち一人一人の取り組み
が地球の旅路をより良く
するためには必要不可欠
であると言えます。地球に
とつても、人類を含めた生
態系にとつても、楽しい旅
が続くようにと、夜空に輝
く星々に願いを込めます。

新任記者紹介



島根大学
教育学部三回生
狩野 元基

この度、新しく市民記者
を務めることになりました。
出身は雲南市です。
大学に入学して、松江市
で生活を送るようになり、
改めて松江市の環境や人の
豊かさに気づき、より一層
松江市のことが好きになり
ました。大好きな松江市の
自然をより良くするために、
皆さまの環境に対する取り
組みを取材し、紹介してい
きたいと思っています。

2018 松江市環境フェスティバル

環境問題について楽しみながら学べる場を提供します。
今年は科学実験マジックショーもあるよ！（入場無料）

とき 平成 30 年 11 月 4 日(日) 10 時～15 時

ところ くにびきメッセ (1F 大展示場)

情報・意見をお寄せください

- 環境をテーマにした活動、意見
 - 取り上げてほしい企画
 - 我が家で工夫しているエコなポイント
 - 日頃、環境について思っていること
- などなど、皆さんからの情報をお待ちしています。

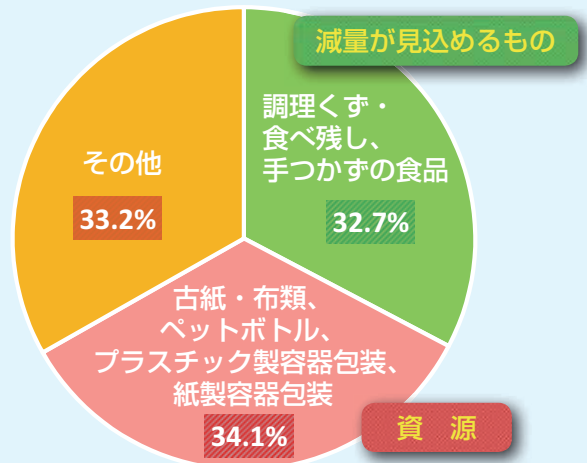
環境保全部環境保全課

〒690-0826 松江市学園南一丁目 20 番 43 号

TEL : 0852-55-5278 FAX : 0852-55-5497

E-mail : k-hozen@city.matsue.lg.jp

ごみの分別と減量に ご協力ください！



松江市内で排出された、家庭のもやせるごみ袋の中にな
が入っているかを調査したところ、グラフに示される結
果（重量の割合）が出ています。（H28年）

その結果・・・

●家庭から出るごみの **3割は生ごみ** です

そして **3割は資源化** できます

生ごみの8割は水分です。水切りを行うだけでごみの減
量に大きな効果があります。また、資源を分別すればごみの
3割を減らすことができます。